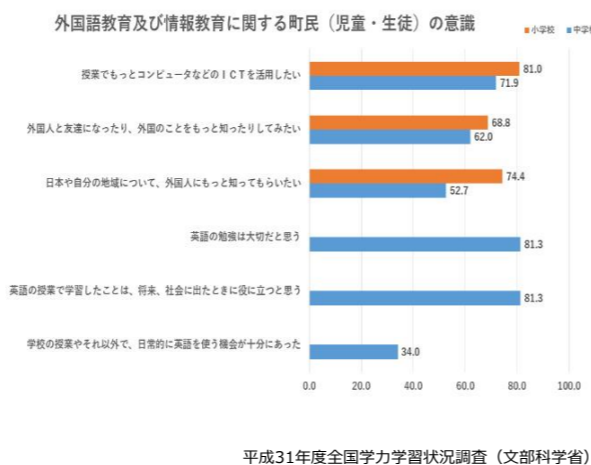


基本目標	まちづくりの原動力となるひとづくり		
1	政策	子育て・子育て・教育の推進	
	1	施策	学校教育の推進
		3	

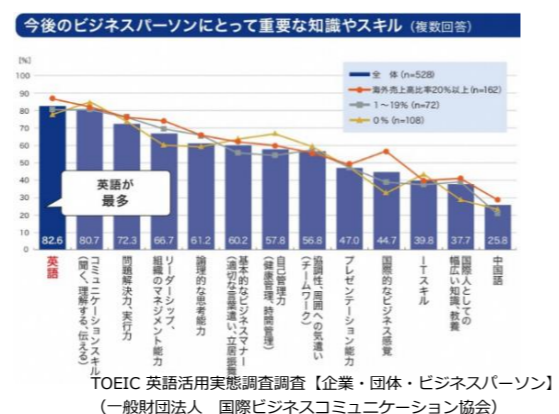
【町民ニーズ】

- 外国人や外国文化について交流したいと考える子どもが多くいます。(小学校 69%, 中学校 62%)
- 大部分の子どもたちが英語の勉強は大切であり、将来、社会で役に立つと考えています。(中学校 81%)
- 学校の授業やそれ以外で、日常的に英語を使う機会が不足していると考えて子どもが多くいます。(中学校 66%)
- 大部分の子どもたちが授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと考えています。(小学校 81%, 中学校 72%)



【町を取り巻く環境（課題等）】

- 2030年までに約49%の仕事がAIにより自動化される可能性が高いとの研究結果が示され、対応が必要です。
- 新学習指導要領により小学校で外国語教育が早期化・教科化され、授業時間も大幅に増加しました。
- 新学習指導要領により中学校で外国語教育の内容（文法・語彙）が高度化されました。
- 中小企業海外現地法人が7年間（～2015年）で約2.5倍、訪日外国人旅行者が4年間（～2016年）で約3倍に増加しています。



【施策目標（目指す姿）】

人工知能等の情報技術の発達と共にグローバル化する予測困難な社会において、子どもたちが「生きる力」を身につけている。

生きる力：変化に対しても主体的に関わることができる力
 感性を豊かに働かせながら、目的を自ら考え、自らの可能性を發揮する力
 よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力

【目標指標（単位）】	基準年	R3	R4	R5	R6
自己肯定感をもつ子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	68(R元)	71	74	77	80
課題解決に向けて自ら考え、行動する子どもの割合（同上調査）	71(R元)	73	75	77	80
英語の勉強が好きな子どもの割合（同上調査）	54(R元)	58	62	66	70
日常的に朝食を食べる子どもの割合（%）	73(R元)	73	73	73	78



具体的な取り組み ～事務事業～

① グローバル教育推進事業

【事務事業目標】 児童生徒がグローバル社会を生き抜けるよう、外国語によるコミュニケーション能力及び情報活用能力等の資質・能力が向上している。	【目標指標（単位）】 児童生徒が英語指導者との授業等に満足している割合（%）				
	基準年	R3	R4	R5	R6
	90 (R元)	91	92	93	94
【取組概要】 各校1名の外国人指導者を常駐配置し、授業内外での外国語使用の機会を創出します。 今新たに求められている、ICT機器の効果的な活用等を通じた指導を行います。	小学校における基礎力定着問題の正答率（%）				
	基準年	R3	R4	R5	R6
	80 (R元)	81	82	83	84
	中学校における基礎力定着問題の正答率（%）				
	基準年	R3	R4	R5	R6
	60 (R元)	61	62	63	64

② 教職員の資質向上事業

【事務事業目標】 児童生徒の「生きる力」を育むことができる教職員の資質が向上している。	【目標指標（単位）】 教職員研修会、教育講演会への参加対象教職員の割合（%）				
	基準年	R3	R4	R5	R6
	70 (R元)	72	74	76	78
【取組概要】 若手教員の育成及び学校経営を先進的に牽引・支援できる専門指導員を各校に配置します。 研修会等の実施及び指導力向上に向けた教育研究活動に対する支援を行います。	教職員研修会、教育講演会において自己の授業改善につながると感じた教職員の割合（%）				
	基準年	R3	R4	R5	R6
	92 (R4)	-	-	-	94

③ 学校給食センター整備事業

【事務事業目標】 児童生徒の食の意識が改善し、心身ともに健全に成長している。	【目標指標（単位）】 学校給食センター整備				
	基準年	R3	R4	R5	R6
	-	-	-	●	●
【取組概要】 学校給食センターを整備し、小学校中学校への完全給食を行います。 整備後は、学校給食センターを活用し、給食を通じた食の意識改善を強化します。					

基本目標 時代に最適化したにぎわいのあるまちづくり

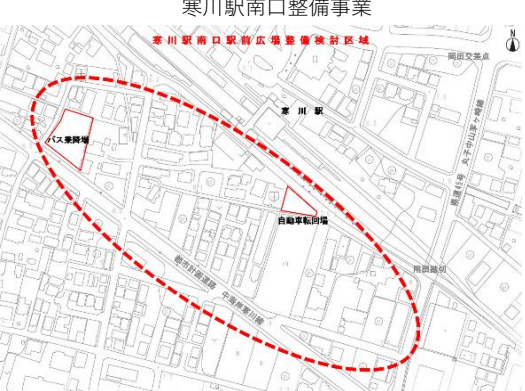


5 政策 市街地の整備
2 施策 1 市街地整備の推進

【町民ニーズ】

- 寒川駅周辺は寒川駅に向かう町内各地からの交通ネットワークの強化が求められています。
- 田端西地区は新たな産業拠点として計画的な市街地整備が求められています。

【町を取り巻く環境（課題等）】

- 寒川駅南口の道路は幅員が狭く、通過車両と駅への送迎車両による交通障害が生じている。また、駅から南口バス乗降場が離れているため、利用者に不便が生じています。
- 田端西地区はさがみ縦貫道路の開通や都市計画道路藤沢大磯線の開通により、交通の利便性が高まりました。この状況の中、地区内の農地転用や耕作放棄地が多くなっており、スプロール化が懸念されます。このことから、立地環境を考慮し新たな産業集積拠点を整備するため、市街化区域に編入し、組合施工の土地区画整理事業が行われています。

【施策目標（目指す姿）】

町民が生活中心拠点（寒川駅周辺）へ快適に行き来できている。
町民が産業集積拠点としての土地利用ができるようになっている。

【目標指標（単位）】	基準年	R3	R4	R5	R6
寒川駅南口駅前広場の供用開始	—				●
産業集積拠点の整備面積（ha）	0(R2)	0	0	4	8

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを

具体的な取り組み ～事務事業～

① 寒川駅南口整備事業

【事務事業目標】
寒川駅南口駅前広場の供用により、町民が快適に行き来している。

【目標指標（単位）】
寒川駅南口駅前広場の用地整備率「面積」 (%)

基準年	R3	R4	R5	R6
5 (R2)	10	10	33	100

【取組概要】
不動産鑑定、大規模用地買収協議、整備するための関係機関との協議を行います。

② 田端西地区まちづくり事業

【事務事業目標】
組合施工の土地区画整理事業が円滑に施行できるようにする。

【目標指標（単位）】
土地区画整理事業の進捗率 (%)

基準年	R3	R4	R5	R6
1.8 (R元)	6	36	93	98

【取組概要】
早期の事業完了に向けて、施行者である土地区画整理組合に対し、技術援助を行うほか、公共施設等の整備に係る費用に対し助成金を交付します。